

(別紙)

令和3年度農林水産祭むらづくり部門 農林水産大臣賞受賞
「もの・こと・ひと」が融合した現在進行形のむらづくりの概要
(沖縄県糸満市米須区自治会)

1 地域の概要

糸満市は、人口約58,500名、面積46.63km²で、那覇市の南約12kmに位置し、沖縄戦終焉の地として、戦没者の慰霊と平和の尊さを現在に伝える平和祈念公園やひめゆりの塔が所在している。

米須区は、糸満市の南東側の平和祈念公園やひめゆりの塔の近くに位置し、人口1,098名、総世帯数462戸、農家戸数90戸であり、農業の盛んな地域として野菜等の産地となっている。



沖縄平和祈念堂(平和祈念公園内)

2 生産活動の特色

本地域は、地域一帯が厚い琉球石灰岩に覆われた保水力の弱い土壌のため、「枯摩文仁(かれまぶい)」と呼ばれるほど干ばつ被害を受けやすく、かつては、さとうきび、葉たばこ等栽培作物も限定され、後継者育成も難しい状況にあった。



湧き水(カー)からの取水の様子



さとうきび畑へかん水する様子

こうした中、平成18年3月に米須地下ダムが完成し、安定的な農業用水が確保できるようになったことから、これまでのさとうきびを中心とした栽培から、野菜等の高収益農業に転換するための環境整備が図られた。

このため、最近では、モロヘイヤやトルコギキョウ等の新規品目の栽培も増えつつあり、1戸あたりの農業産出額も413万円(H7)から614万円(R元)へと増加している。

農業者数の推移は、糸満市全体では減少傾向にあるなかで、当該地区の農家戸数は95戸(H7)から90戸(H27)とほぼ維持されており、新規就農者もこの10年間毎年約2名の実績となっている。また、夫婦で目標を立てて農業を営む「家族協定」の認定農家も13戸と、女性の活躍もみられる地域である。



モロヘイヤを栽培する若い後継者



夫婦でトルコギキョウを栽培する生産者

3 むらづくりの特色

産業構造の変化等により、徐々に集落に対する愛着や集落づくりに対する機運が薄れていく危機感を機敏に感じた集落のリーダーが、平成8年に住民参加型の集落づくりを目指し「米須活性化協議会」を立ち上げ、約2年をかけ集落ビジョンを作成した。この集落ビジョンは、集落の住民だけではなく、集落外に居住する米須出身者やその子弟からも意見を取り入れて作成されており、米須集落の将来に向けた道しるべとして、集落ビジョンに基づいたむらづくりが長い年月をかけて着実に実行されている。



米須活性化協議会が結成され、地域活性化に向けた活動が本格化

むらづくりの推進体制は、米須自治会が中心となり、沖縄県、糸満市、JAおきなわ、土地改良区といった関係機関に加え、地域のリゾートホテル等民間事業者とも連携が図れた形となっている。

また、米須自治会の下部組織として、「世話役会」という組織を立ち上げ、更に、その下に7つの班を設置することで、身軽に動ける班を単位とした様々な活動が展開されている。



糸満市民俗文化財に指定されたウシデーク



米須大綱曳き



米須村丸ごと生活博物館(集落)訪問客



米須エイサー

具体的なむらづくり活動内容としては、他地域ではあまり見られない婦人だけで行われる民俗芸能「米須ウシデーク」の他、「米須大綱曳き」や「米須エイサー」等伝統文化の継承に積極的に取り組まれている。また、米須地域の自然・生活環境を保全し次世代へと継承することを目的に、米須自治会と米須区民との間で「米須地区環境協定」を締結していることや、米須地区全体を屋根のない博物館「米須村丸ごと生活博物館」として、地域の生活・文化・産業・自然等について、地域住民が訪れた人に案内・説明を行うなど、他地域ではあまり見られない独自の活動が行われており、今回の受賞は、こうした「もの」、「ひと」、「こと」が融合した現在進行形のむらづくり活動が、他の活動の模範となる優良事例として高く評価されたものである。